

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位(30時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を取得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅱとともに、わが国の高齢者支援領域、障害者支援領域等における実践現場の諸課題を理解し、諸課題に対するソーシャルワークの役割を検討する。なお、ソーシャルワーク特論Ⅰでは高齢者支援領域に焦点化する。
到達目標	1. 高齢者支援の変遷と社会福祉基礎構造改革について理解できる。 2. 社会福祉基礎構造改革以降の実践現場の諸課題を、ソーシャルワークの視点から理解できる。 3. 実践現場の諸課題に対するソーシャルワークの役割を理解できる。 4. 諸課題に対する実践の方略を検討することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション／高齢者支援領域における実践現場の課題 第2回：高齢者支援の歴史 第3回：措置制度と利用契約制度、社会保険方式 第4～8回：社会福祉基礎構造改革と高齢者支援の変容 ・思想的・財政的背景 ・介護保険制度の変遷と問題点 高齢者の暮らし／支援の質的変容（支援関係の矮小化）／制度の変遷 第9～10回：社会福祉実践現場の現状と課題 第11～13回：実践現場の課題とソーシャルワークの役割 第14～15回：諸課題に対する実践の方略—ソーシャルワーカーが取り組むこと—

学修方法	文献・資料、フィールドワーク等を用いて論議を深めていく。				
評価方法	レポート:50%、授業への参加態度：50%				
課題に対するフィードバック	毎回の授業でその都度フィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前に指定図書・論文等を熟読し、質問と意見を用意しておくこと。				
オフィスアワー	川向雅弘：2705研究室 時間帯については授業時に提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅱとともに、「地域福祉」をテーマとして、社会福祉と地域福祉の主要な理論、社会福祉・地域福祉政策の変遷、さらに地域福祉を実現するコミュニティソーシャルワークとコミュニティワークという方法について理解することを目指す。 特に社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅰでは、社会福祉、地域福祉の主要な理論、地域福祉の政策・理論の変遷等について学びを深める。
到達目標	1. 社会福祉、地域福祉の主要な理論が理解できる 2. 社会福祉・地域福祉の政策の変遷について理解できる 3. 近年の地域福祉政策の到達点である地域共生社会構築について理解できる 4. 先駆的な地域福祉実践について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～3回：社会福祉の主要な理論（地域福祉論の関係で） 第4回：生活の基盤としての地域社会に関する理論 第5～7回：地域福祉の主要な理論 第8～9回：社会福祉・地域福祉政策の変遷 第10～12回：近年の地域福祉政策の到達点 第13～14回：先駆的な地域福祉実践 第15回：まとめ

学修方法	発表、討論で進めていく				
評価方法	レポート 50%、授業中の発表・討議・演習への参加 50%				
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う				
指定図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	必要に応じて授業の中で紹介				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前に提示した図書・論文を熟読する。発表担当者はレジュメにまとめ、報告する				
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位（30時間） 選択 春semester
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰでは「ソーシャルワーカー論」を取り上げ、社会福祉援助活動の「現場」における支援者の体験に埋め込まれている「実践知」を掘り起こす先行研究に着目しながら、ソーシャルワーク実践の本質を探ることを目的とする。
到達目標	受講者自身が自らの「行き詰まった現場体験」あるいは「印象に残る現場体験」を振り返り、そこに埋め込まれている「実践知」をある程度明確化できるようになることを目指すとともに、「実践知」を支える「倫理」のあり方についても考察することを目的とする。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2・3回：振り回される体験と巻き込まれる体験 第4・5回：実践事例の検討① 第6・7回：ソーシャルワーカーとジレンマという体験 第8・9回：実践事例の検討② 第10・11回：高齢者現場における「老い」と「介護」にまつわる倫理 第12・13回：実践事例の検討③ 第14・15回：暗黙知と実践知

学修方法	学生による発表及び討論で進めます。				
評価方法	授業中の態度 50%、総括レポート 50%				
課題に対するフィードバック	授業内の討議等で対応します。				
指定図書	特に定めません。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	『「ゆらぐ」ことのできる力』尾崎新編、誠信書房 『「現場」のちから』尾崎新編、誠信書房				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	・事前学修：事前に提示された文献を熟読し、レジメにまとめる。(60 分程度) ・事後学修：不明な事項を新たに調べ、自分の意見をまとめる。(60 分程度)				
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2614 です。時間については、初回授業時に提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅱとともに、近年の社会福祉施策、教育政策、子ども・若者政策の動向の中でスクールソーシャルワーカーに一層強く求められるようになった児童・生徒及び家庭へのソーシャルワークについて理解し、実践方法を身につけることを目指す。特にソーシャルワーク特論Ⅰでは、スクールソーシャルワークについて学びを深める。
到達目標	1. 精神保健医療福祉政策・理論の変遷について理解できる 2. 近年ソーシャルワーカーに求められる新たな役割について理解できる 3. 地域精神保健医療ソーシャルワークと子ども・若者ソーシャルワークについて、それぞれの概要、発展過程について理解できる 4. 地域精神保健医療ソーシャルワーク展開プロセス、方法について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション・概要とプログラム評価 第2回：家庭と学校の現状（子ども家庭の現状・学校の現状） 第3回：家庭と学校の現状（今なぜスクールソーシャルワークなのか、スクールソーシャルワークの現状と課題） 第4回：スクールソーシャルワーク研究の動向（スクールソーシャルワークの発展） 第5回：スクールソーシャルワーク研究の動向（スクールソーシャルワークに関する調査研究） 第6回：効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムの作成（インパクト理論） 第7回：効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムの作成（プロセス理論） 第8回～9回：全国調査によるプログラムの検証 第10回：効果的プログラムモデルの改善・形成 第11回～12回：実践家参画型ワークショップの方法によるプログラム再構築 第13回：プログラムの試行 第14回：効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムの完成（インパクト理論、プロセス理論） 第15回：まとめ

学修方法	重要な論点を講義し、関心のある領域を大学院生が発表し、討議する。				
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後のリアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。				
指定図書	エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク 山野則子 明石書店 2016				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：シバスのテーマを事前に学習する。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）				
オフィスアワー	研究室（2608）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅰ
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、社会福祉原論特論Ⅱとともに、障害者権利条約により精神障害者を取り巻く国内法や政策がどのように変化したかをテーマとして、日本の精神保健福祉の現状について学ぶ。また、現在までの精神保健福祉に関する歴史の変遷やソーシャルワークやケアマネジメントについても学びを深める。
到達目標	1. 精神科医療の歴史・理論について理解できる 2. 障害者権利条約の成立経緯と法理念について理解できる。 3. 精神保健福祉領域の最新の研究について理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：障害者権利条約の成立の歴史① 第3回：障害者権利条約の成立の歴史② 第4回：障害者権利条約と国内法との比較 第5回：人権について 第6回～8回：精神障害者の権利について 第9回～11回：精神障害者の権利の事例について 第12回～13回：精神障害者へのソーシャルワーク、ケアマネジメントについて 第14回～15回：まとめ

学修方法	重要な論点を講義し、関心のある領域を大学院生が発表し、討議する。				
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後のリアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：シバスのテーマを事前に学習する。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）				
オフィスアワー	研究室（2605）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2単位(30時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を取得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅰとともに、わが国の高齢者支援領域、障害者支援領域等における実践現場の諸課題を理解し、諸課題に対するソーシャルワークの役割を検討する。なお、ソーシャルワーク特論Ⅱでは障害者支援領域に焦点化する。
到達目標	1. 障害者支援の歴史と問題点について理解できる。 2. 今日求められている障害者支援の方向性を、ソーシャルワークの視点から理解できる。 3. 実践現場が抱える諸課題に対するソーシャルワークの役割を理解できる。 4. 諸課題に対する実践の方略を検討することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション／わが国の障害者支援の歴史と内省的考察 第2回：障害者支援の歴史的理解 第3回：措置制度と利用契約制度 第4回：介護保険制度と障害者総合支援法、その制度的相違と相関 第5回：「障害者の65歳問題」の構造的理解 第6～11回：支援概念の本質的理解 自立支援とは／意思決定支援とは／生活を支援するとは／合理的配慮とは 第12回：自立生活支援の課題—「暮らしを支援する」とはどのようなことか— 第13回：障害者の就労支援の課題—なぜ「就労」が強調されるのか— 第14回：障害者の親亡き後の支援の課題—障害者にとっての「親」とは— 第15回：諸課題に対する実践の方略—ソーシャルワーカーが取り組むこと—

学修方法	文献・資料、フィールドワーク等を用いて論議を深めていく。				
評価方法	レポート:50%、授業への参加態度：50%				
課題に対するフィードバック	毎回の授業でその都度フィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前に指定図書・論文等を熟読し、質問と意見を用意しておくこと。				
オフィスアワー	川向雅弘：2705研究室 時間帯については授業時に提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅰとともに、「地域福祉」をテーマとして、社会福祉と地域福祉の主要な理論、社会福祉・地域福祉政策の変遷、さらに地域福祉を実現するコミュニティソーシャルワークとコミュニティワークという方法について理解することを目指す。 特に社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅱでは、地域福祉をコミュニティソーシャルワークとコミュニティワークという方法について学びを深める。
到達目標	2. 近年ソーシャルワーカーに求められる新たな役割について理解できる。 コミュニティワークとコミュニティソーシャルワークについて、それぞれの概要、発展過程、展開プロセス、方法について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 近年の地域福祉の政策動向とソーシャルワーカーの新たな課題 第2回：地域福祉援助の発展過程の概要 第3回：コミュニティオーガニゼーションからコミュニティワークへ 第4回：コミュニティワークからコミュニティソーシャルワークへ 第5回：イギリスバークレイ報告とコミュニティソーシャルワーク 第6回：コミュニティソーシャルワークの実践事例 第7回：コミュニティソーシャルワークのプロセス 第8回：コミュニティソーシャルワークの方法 第9回：コミュニティワークの実践事例 第10回：コミュニティワークの対象 第11回：コミュニティワークの理念 第12回：コミュニティワークのプロセスモデル 第13回：コミュニティワークの方法 第14回：地域福祉計画の意義と策定方法 第15回：まとめ

学修方法	発表、討論で進めていく				
評価方法	レポート 50%、授業中の発表・討議・演習への参加 50%				
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う				
指定図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	必要に応じて授業の中で紹介				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前に指定図書・論文を熟読する。発表担当者はレジュメにまとめ、報告する				
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋セメスター
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰを踏まえ、本科目では、ソーシャルワーカーをはじめとした対人援助職の成長に関する先行文献を読み解きながら、「人が育つ」環境のあり方を考察する。前半は、スーパービジョンの基礎知識を確認し、後半では、受講者自らの臨床経験全体を振り返り、それを物語化するとともに、「部下を育てる」スーパービジョンのあり方を検討する。
到達目標	スーパービジョンの基本的な知識が説明できるだけでなく、自らの専門職者としての成長過程を振り返ることで理論と実践を結びつけ、組織の中で実践可能なスーパービジョンを描くことができるようになる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2・3 回：スーパービジョンの理論と歴史 第 4・5 回：スーパービジョンの方法 第 6・7 回：スーパービジョンの展開過程 第 8・9 回：スーパービジョンの実際①（新人を対象とした実践） 第 10・11 回：スーパービジョンの実際②（中堅を対象とした実践） 第 12・13 回：受講者の育てられた体験 第 14・15 回：受講者の育てる体験

学修方法	学生による発表及び討論で進めます。				
評価方法	授業中の態度 50%、総括レポート 50%				
課題に対するフィードバック	授業内の討議等で対応します。				
指定図書	『ダイアロジカル・スーパービジョン——リフレクションを活用した職場文化のつくりかた』カイ・アルハネン他、川田美和他監訳、遠見書房				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	『スーパービジョントレーニング:対人援助専門職の専門性の向上と成長を支援する』ジェーン・ワナコット、野村豊子他訳、学文社 『スーパービジョン イン ソーシャルワーク 第5版』アルフレッド・カデューシン、福山和女他訳、中央法規 『実践ソーシャルワーク・スーパービジョン』日本ソーシャルワーク教育学校連盟、中央法規				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	- 事前学修：事前に提示された文献や自分の実践事例等を記録としてまとめる。(60分程度) - 事後学修：不明な事項を新たに調べたり、自分の意見をまとめる。(60分程度)				
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2614 です。時間については、初回授業時に提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、ソーシャルワーク特論Ⅰとともに、近年の社会福祉施策、教育政策、子ども・若者政策、地域精神保健医療福祉政策の動向を踏まえ、多機能型精神科診療所が果たす妊娠期から成人期までの心理・社会的な支援について学び、精神障害にも対応した包括ケアシステムのあり方について学びを深める。
到達目標	1. 近年の社会福祉施策、教育政策、子ども・若者政策、地域精神保健医療福祉政策の動向について理解できる。 2. 多機能型精神科診療所が果たす妊娠期から成人期までの心理・社会的な支援について理解できる。 3. 精神障害にも対応した包括ケアシステムのあり方について理解できる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 多機能型精神科診療所構想と精神障害にも対応した包括ケアシステム 第2回：妊娠期から成人期までのメンタルヘルス①（妊娠期から児童期） 第3回：妊娠期から成人期までのメンタルヘルス②（青年期から成人期：家庭） 第4回：多機能型精神科診療所（主に医療部門） 第5回：多機能型精神科診療所（主に福祉部門） 第6回：多機能型精神科診療所（主に心理部門） 第7回：多機能型精神科診療所（主に療育部門） 第8回：多機能型精神科診療所（主に精神科デイ・ケア部門） 第9回：ひきこもる若者への支援と家族支援 第10回：若者の自傷・自殺予防とソーシャルワーク 第11回：発達障害の二次障害への個別教育支援・福祉支援 第12回：子ども・若者支援推進法（子ども・若者支援プラン） 第13回：地域支援における研修会やNPOの役割 第14回：各地の多機能型精神科診療所 第15回：まとめ

学修方法	重要な論点を講義し、関心のある領域を大学院生が発表し、討議する。				
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後のリアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。				
指定図書	地域における 多機能型精神科診療所実践マニュアル 著者 大嶋正浩編著 2017 金剛出版				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：シバスのテーマを事前に学習する。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）				
オフィスアワー	研究室（2608）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅱ
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、社会福祉原論特論Ⅰとともに、障害者権利条約により精神障害者を取り巻く国内法や政策がどのように変化したかをテーマとして、日本の精神保健福祉の現状について学ぶ。また、現在までの精神保健福祉に関する歴史的変遷やソーシャルワークやケアマネジメント、スーパーバイズについても学びを深める。
到達目標	1. 精神科医療の歴史・理論について理解できる 2. 障害者権利条約の成立経緯と法理念について理解できる。 3. 精神保健福祉領域の最新の研究について理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回～4回：障害者権利条約による日本国内法改正とその事例 第5回：人権について 第6回～9回：精神障害者の権利侵害に関する国家賠償請求について 第10回～13回：精神障害者へのソーシャルワーク、ケアマネジメント、事例検討会、スーパーバイズについて 第14回～15回：まとめ

学修方法	重要な論点を講義し、関心のある領域を大学院生が発表し、討議する。				
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後のリアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：シバスのテーマを事前に学習する。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）				
オフィスアワー	研究室（2605）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	2 単位(30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究テーマを立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ・Ⅱの学びを踏まえ、わが国のソーシャルワーク実践現場の諸課題を整理し、諸課題に対するソーシャルワークの役割を研究する。さらに、研究成果をまとめ、報告し、討論を通して理解を深める。
到達目標	1. 実践領域に関連する社会福祉政策、ソーシャルワーク実践現場の課題に関連する主要な文献を読み、批判的に考察する。 2. 自身の関心と問題意識を明確化できる。 3. 関心領域の先行研究レビューを行い、その報告と討論ができ、新たな気づきと理解を得ることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション／研究の進め方 第2～6回：主要な文献にあたり、批判的に考察する。 第7回：関心・問題意識の明確化 第8～14回：問題意識にかかわる文献を探索し、まとめ、報告し、論議し、理解を深める。 第15回：まとめ／今後の研究に向けて

学修方法	演習科目です。				
評価方法	レポート等成果物:50%、演習への参加態度：50%				
課題に対するフィードバック	毎回の演習でその都度フィードバックを行う。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	発表担当者はレジュメにまとめ、報告をする。				
オフィスアワー	川向雅弘：2705研究室 時間帯については授業時に提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	佐藤 順子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	社会福祉・ソーシャルワーク特論Ⅰ・Ⅱを踏まえ、地域福祉に係る課題について、各自の関心に基づいて研究し、その成果を報告し、討論することをおして理解を深める
到達目標	自身が関心のある地域福祉政策、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークに係る事例報告、論文を読み、論点が理解できる 自身の関心領域を明確化できる 関心領域に関する先行研究を探索し、要点をまとめ、報告することができる 活発な集団討論ができ、理解を深めることができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～6回：地域福祉、コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワークに関する主要な研究論文を読み、批判的に考察する 第7回：地域福祉、コミュニティワークに関する関心領域の明確化 第8～14回：各自が関心をもつ領域に係る論文を探索し、まとめ、論議し、理解を深める 第15回：まとめ

学修方法	演習科目です。				
評価方法	レポート 50%、授業中の報告・討議への参加 50%				
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う				
指定図書	特になし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	必要に応じて授業の中で紹介				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	発表担当者はレジュメにまとめ、報告する。 発表後は、討論を踏まえて再検討し、次回に活かす。				
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋semester
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ・Ⅱの学びを踏まえ、各自が関心をもつ社会福祉現場の課題を整理し、研究成果をまとめる。この一連のプロセスにおける報告や討論を通して、ソーシャルワークやスーパービジョンの理解を深める。
到達目標	1. 学生が関心をもつ領域にかかわるソーシャルワークに係る事例報告、論文を読み、論点が理解できる。 2. 自分の関心領域を明確化できる。 3. 関心領域に関する先行研究を探索し、要点をまとめ、報告し、活発な集団討議によって、自らの社会福祉実践の捉えなおしができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～6回：ソーシャルワークやスーパービジョンに関する主要な研究論文を読み、批判的に考察する 第7回：自らの関心領域を明確化する 第8～14回：各自が関心をもつ領域に係る論文を探索し、まとめ、論議し、理解を深める 第15回：まとめ

学修方法	学生による発表及び討論で進めます。				
評価方法	授業中の態度 50%、総括レポート 50%				
課題に対するフィードバック	授業内の討議等で対応します。				
指定図書	学生と相談をして決めます。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	授業時に適宜提示します。				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修では、論文を熟読し、レジメにまとめる。(60 分程度) 事後学修には、不明な事項をさらに調べ、自らの意見をまとめる。(60 分程度)				
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2614 です。時間については、初回授業時に提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	大場 義貴
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	ソーシャルワーク特論Ⅰ・Ⅱを踏まえ、疫学・統計学手法に則り、精神保健医療福祉領域、子ども・若者支援領域に係る課題について、各自の関心に基づいて研究し、その成果を報告し、討論することをおして理解を深める。統計データ分析ソフトは、SPSS または Stata を使用します。
到達目標	1. 精神保健ソーシャルワークと子ども・若者ソーシャルワークに係る事例報告、論文を読み、論点が理解できる。 2. 自分の関心領域を明確化できる 3. 関心領域に関する先行研究を探索し、要点をまとめ、報告することができる。また、活発な集団討践ができ、理解を深めることができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～6回：精神保健医療福祉領域、子ども・若者支援領域に関する主要な研究論文を読み、批判的に考察する 第7回：精神保健医療福祉領域、子ども・若者支援領域に関する関心領域の明確化 第8～14回：各自が関心をもつ領域に係る論文を探索し、まとめ、論議し、理解を深める 第15回：まとめ

学修方法	関心のある領域を大学院生が発表し、研究目的、方法などについて討議する。				
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後のリアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：シバスのテーマを事前に学習する。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）				
オフィスアワー	研究室（2608）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。				

科目名	社会福祉・ソーシャルワーク特論演習
科目責任者	佐々木 正和
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	1. 研究の関心領域にかかわるソーシャルワークに係る事例報告、論文を読み、論点が理解できる。 2. 研究の関心領域を明確化できる。 3. 先行研究を探索し、研究論文をまとめていく。
到達目標	1. 精神保健福祉関連の事例報告、論文を読み、論点が理解できる。 2. 研究の関心領域を明確化できる 3. 研究の関心領域に関する先行研究を探索し、要点をまとめ、報告することができる。また、活発な集団ができ、理解を深めることができる
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～6回：研究に関する主要な研究論文を読み、批判的に考察する 第7回：研究の関心領域を明確化する 第8～14回：各自が関心をもつ領域に係る論文を探索し、まとめ、論議し、理解を深める 第15回：まとめ

学修方法	関心のある領域を大学院生が発表し、研究目的、方法などについて討議する。				
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後のリアクションペーパー（感想、意見、質問等）を中心にフィードバックする。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：シバスのテーマを事前に学習する。 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。（目安時間 40 分）				
オフィスアワー	研究室（2605）にて、自由に研究相談に応じます。時間については、初回授業で提示します。				

科目名	介護福祉特論Ⅰ
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2単位(30時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	・介護の社会化を資格制度と人材育成の両側面から理論的・体系的に考えながら、必要な理論と知識について講義を行う。 ・介護福祉士のキャリアパスについて職業能力から専門性を捉え学問体系について検討を行う。 ・今後の人材の質の向上・量の確保のために、介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラム各種研修制度について概説する。
到達目標	1. 介護福祉分野および関連諸科学における主要な理論や概念に関する理解を深め、適切な用語を用いて説明できる。 2. 介護福祉士養成科目に関する知識、理論を習得し、解説することができる。 3. 介護福祉領域における任用資格などの養成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基礎となる人への理解」 第2回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基礎となる専門性」 第3回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基盤となる介護の歴史」 第4回：生活支援の基礎理論Ⅰ「介護福祉の基礎となる健康」 第5回：生活支援の実践「生活の連続性と生活支援の実践」 第6回：生活支援の実践「ICFと介護過程の展開」 第7回：生活支援の実践「介護福祉の概念」 第8回：生活支援の実践「生活支援の実際」 第9回：生活支援の実践「多職種の連携」 第10回：介護福祉論「介護福祉の概念」 第11回：介護福祉論「介護問題の背景」 第12回：介護福祉論「介護福祉士の役割」 第13回：介護福祉論「尊厳を支える介護」 第14回：介護福祉論「介護実践における連携」 第15回：介護福祉論「介護従事者の倫理」

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。				
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談またはWebclassにて課題に対するフィードバックを行います。				
指定図書	指定図書はない。随時指定				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)				
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。				

科目名	介護福祉特論 I
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春
科目の位置付	介護を必要としている方の尊厳の保持し、自立生活支援を行うこと、そして可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう支援することが我が国の政策としても打ち出されています。要介護者だけでなく、家族や地域を含めた支援の確立に向けての取り組みが必要とされています。 本講介護福祉領域における様々な課題を取り上げ、考察を深めていきます。社会福祉実践や社会福祉専門職の現状等についても検討を深めます。
科目概要	社会福祉の専門職を目指す大学生として、目標、将来像をイメージしながら、内発的・主体的に学修に取り組むことができるように初年次学生を支援する。 大学で学ぶための基礎的な諸能力として、広い知識を獲得するための読書力、考えたことを整理し文章化する能力、自分の考えを発表する能力等を高めることを目的に、少人数の演習方式で学修を進める。
到達目標	1. 介護福祉援助実践を研究として深めるための方法論や技法を検討することができる。 2. 要介護者等の尊厳を保持する地域生活支援について検証することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 研究基礎 第1回：実践を研究する意義等 第2回：先行研究探索 第3回：研究テーマの方向性 第4回：調査研究を読み解く 介護の対象者の理解 第5回：生活の困難性について 第6回：地域で暮らす（社会的存在であり続けること）と支援 第7回：介護者の孤立 第8回：家族や地域へのアプローチ 介護福祉の現状と課題 第9回：要介護者の実態 第10回：介護福祉領域の現状 第11回：介護福祉領域の課題 第12回：介護福祉職のメンタルヘルスについて 第13回：介護福祉職の人材育成について 介護福祉領域の先行研究 第14回：社会福祉実践の総合的検討 ①（実践事例・研究論文等の検証） 第15回：社会福祉実践の総合的検討 ②（文献レビュー）

学修方法	毎回のテーマになっている分野の論文等を探索し、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。				
評価方法	授業の参加状況（50％）課題発表（50％）				
課題に対するフィードバック	授業内でその都度フィードバックする。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	授業前に提示した授業計画の各内容についてその都度自己学習をしてくる。 各授業内容を応用した自己の研究や実践について考察を深める。 原則として 120 分程度の事前・事後学修はそれぞれで実施すること				
オフィスアワー	初回演習時に提示します				

科目名	介護福祉特論Ⅱ
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	・介護の社会化を資格制度と人材育成の両側面から理論的・体系的に考えながら、必要な理論と知識について講義を行う。 ・介護福祉士のキャリアパスについて職業能力から専門性を捉え学問体系の検討を行う。 ・今後の人材の質の向上・量の確保のために、介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラム各種研修制度について概説する。
到達目標	1. 介護福祉分野および関連諸科学における主要な理論や概念に関する理解を深め、適切な用語を用いて説明できる。 2. 人材育成・外国人介護士に関する知識、理論を習得し、文章化することができる。 3. 介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：介護福祉職の役割 全人的な援助 第 2 回：介護福祉職の役割 自己実現 第 3 回：介護福祉職の役割 代弁者 第 4 回：介護福祉職の役割 介護過程の展開（実践） 第 5 回：介護福祉士の課題と育成 第 6 回：地域包括ケアの担い手 ホームヘルパー 第 7 回：地域包括ケアの担い手 デイサービスセンター 第 8 回：地域包括ケアの担い手 小規模多機能型介護 第 9 回：地域包括ケアの担い手 定期巡回随時対応訪問介護看護 第 10 回：介護福祉教育 基本的なあり方 第 11 回：介護福祉教育 教材研究 第 12 回：国際比較 ケアワーク論「ドイツにおけるケア」 第 13 回：国際比較 ケアワーク論「北欧・フィンランドにおけるケア」 第 14 回：国際比較 ケアワーク論「韓国などアジア圏におけるケア」 第 15 回：まとめ

学修方法	「講義」を中心に行いますが、適宜「討議」も行います。				
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談またはmoodleにて課題に対するフィードバックを行います。				
指定図書	指定図書はない。随時指定				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：シラバスに示したテキストの該当箇所を熟読しておく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)				
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。				

科目名	介護福祉特論Ⅱ
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	介護福祉を考える視点として、社会的存在としての生活を重視する。 生活の困難性に対する制度やサービス、ネットワークについて学ぶ。 介護福祉領域における様々な課題を取り上げ、考察を深める。 介護福祉専門職の現状や課題についても検討を深める。
到達目標	1. 支援が必要な人たちの尊厳を保持する生活保障のための制度や政策、ネットワークを学ぶ。 2. 介護福祉専門職の現状や課題について検証し、解決策を提案できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> <担当教員名>篠崎良勝 制度・サービス・ネットワーク 第1回：介護保険制度等の社会福祉制度 第2回：文献紹介・（介護福祉領域） 第3回：文献紹介・ディスカッション（制度の課題について） 第4回：課題発表・ディスカッション（ネットワークについて） 専門職種の現状と課題 第5回：文献紹介・ディスカッション（実態について） 第6回：文献紹介・ディスカッション（課題について） 第7回：文献紹介・ディスカッション（課題解決に向けて制度の課題について） 第8回：文献紹介・ディスカッション（テーマは自由） 第9回：文献紹介・ディスカッション（テーマは自由） 文献レビュー 第10回：課題発表・ディスカッション 第11回：課題発表・ディスカッション 第12回：課題発表・ディスカッション 第13回：課題発表・ディスカッション 第14回：課題発表・ディスカッション 第15回：課題発表・ディスカッション

学修方法	毎回のテーマになっている分野の論文等を探索し、抄読、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。				
評価方法	課題の取組み（30%）、プレゼンテーション（30%）、ディスカッション（40%）				
課題に対するフィードバック	授業内でその都度フィードバックする。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	授業前に提示した授業計画の各内容についてその都度自己学習をしてくる。 各授業内容を応用した自己の研究や実践について考察を深める。 原則として 120 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること				
オフィスアワー	初回授業時に提示します				

科目名	介護福祉特論演習
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	・介護の社会化を資格制度と人材育成の両側面から理論的・体系的に考えながら、必要な理論と知識について講義を行う。 ・介護福祉士のキャリアパスについて職業能力から専門性を捉え学問体系の検討を行う。 ・今後の人材の質の向上・量の確保のために、介護人材育成に必要な基礎知識や養成プログラム各種研修制度について概説する。
到達目標	1. 専門分野における高度な知識と技術を習得し、実践モデルを作成できる。 介護福祉士養成科目に関する知識、理論を習得し、解説することができる。 介護福祉領域における任用資格などの養成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。 介護福祉士養成科目に関する知識、理論を習得し、解説することができる。 介護福祉領域における任用資格などの養成に必要な基礎知識や養成プログラムの中身について説明できる。 先行研究をベースにしたの発表やテーマにおけるデベートに積極的に臨むことができる対象者
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 講義 領域人間と社会編」 第 2 回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 講義 領域介護編」 第 3 回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 講義 領域こころとからだのしくみ編」 第 4 回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 実習編」 第 5 回：グループ討議 テーマ「介護福祉士養成科目 演習編」 第 6 回：グループ討議 テーマ「ファーストステップ研修 A」 第 7 回：グループ討議 テーマ「ファーストステップ研修 B」 第 8 回：グループ討議 テーマ「ユニットリーダー制度」 第 9 回：グループ討議 テーマ「プリセプター・アセッサー制度」 第 10 回：研修プログラムの要素 第 11 回：対象者別研修プログラム作成演習①外国人介護士 第 12 回：対象者別研修プログラム作成演習②新人教育 第 13 回：対象者別研修プログラム作成演習③中堅者教育 第 14 回：対象者別研修プログラム作成演習④管理者教育 第 15 回：対象者別研修プログラム作成演習⑤相互交流プログラム

学修方法	「討議」と「発表」を中心に行います。				
評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談またはWebclass にて課題に対するフィードバックを行います。				
指定図書	指定図書はない。随時指定				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：授業で示した資料及び関連する文献を読んでおく。(40 分) 事後学修：講義内容について振り返り整理しておく。(40 分)				
オフィスアワー	社会福祉学研究科所属の野田由佳里研究室（2706 研究室）にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。				

科目名	介護福祉特論演習
科目責任者	篠崎 良勝
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	・研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 ・研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	高齢者・障害者福祉特論Ⅰの内容をふまえ、高齢者・障害者福祉実践の研究計画の作成を行う。具体的には各自の疑問や関心のあるテーマの論文を取り上げ、グループ討議を行い、研究テーマの絞り込みを行い、研究計画書の作成を行う。これらの過程を通して自己の研究テーマを明確化し、そのうえで仮説の設定からその検証という一連の流れである研究手法を身に着ける。高齢者や障害者の福祉領域のみの先行研究と検討するのではなく、幅広く社会福祉学、看護学、心理学、社会学等々の隣接する領域の知見も深める。質的研究や量的研究の手法についても学び、高い客観性・妥当性が担保された論文の作成技法を修得する。
到達目標	1. 研究テーマを設定して、研究概念枠組みを検討して研究計画書を作成する。 2. 研究計画書を基に倫理委員会の申請書を作成し、承認を得ることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第 1 回：オリエンテーション 第 2 回：研究の基礎知識 ① 研究とは何か 第 3 回：研究の基礎知識 ② 文献検索の方法 第 4 回：研究の基礎知識 ③ 研究における倫理的配慮 第 5 回：研究テーマの設定 ① 研究の進め方 第 6 回：研究テーマの設定 ② 疑問や発見とリスト 第 7 回：研究テーマの設定 ③ 研究デザイン 第 8 回：研究枠組み ① 概念枠組みとは 第 9 回：研究枠組み ② 用語の操作的定義について 第 10 回：研究枠組み ③ 研究疑問からの仮説について 第 11 回：研究計画書の作成 ① 第 12 回：研究計画書の作成 ② 第 13 回：研究計画書の作成 ③ 第 14 回：倫理申請書の作成 ① 第 15 回：倫理申請書の作成 ②

学修方法	講義や討議、発表などの形式で行う。				
評価方法	授業の主体的な参加状況（30％） 計画書の完成度（70％）				
課題に対するフィードバック	授業内にてその都度フィードバックする。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	自分の関心領域の論文を探索し、独創的であつ実践可能、介護福祉援助実践に応用できる研究な研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。 原則として 120 分程度の事前・事後学習はそれぞれで実施すること				
オフィスアワー	初回授業時に提示します。				

科目名	子ども家庭福祉特論Ⅰ
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2単位(30時間) 選択 春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、子ども家庭福祉特論Ⅱとともに「子ども虐待」をテーマとして、子ども虐待の現状、子ども虐待に関する法制度、子ども虐待への対応とその問題点などについて学ぶ。
到達目標	1. 現在の子ども・家庭福祉領域における子ども虐待の問題について、歴史・法律・対応等の広い視野から基本的事項を理解する。 2. 子ども虐待への対応の中核機関である児童相談所および区市町村の現状と課題を把握する。 3. 子ども虐待の事例等から具体的な対応を理解する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2-3回：諸外国とわが国の子ども虐待における対応の歴史 第4-5回：現代における子ども虐待の定義（法律における定義、マルトリートメント） 第6-7回：子ども虐待に関する先行研究 第8-9回：子ども虐待への対応（児童相談所） 第10-11回：子ども虐待への対応（市区町村） 第12-13回：子ども虐待の事例から学ぶ（身体的虐待・性的虐待） 第14-15回：子ども虐待の事例から学ぶ（心理的虐待・ネグレクト）

学修方法	発表と討議で進める。				
評価方法	レポート 60%、授業中の発表・討議・演習への参加 40%で評価する。				
課題に対するフィードバック	発表、討議におけるフィードバックを行う。 また、課題提出後には、面談を設けてフィードバックを行う。				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：指定図書・論文を熟読し、疑問点等を考える。 事後学習：発表担当者はレジュメにまとめ、参考文献等を読む。授業での討議等をまとめる。				
オフィスアワー	社会福祉学研究科、2号館 6 F2610 研究室。時間については初回授業時に提示する。				

科目名	子ども家庭福祉特論Ⅰ
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2 単位
科目の位置付	社会福祉分野における高度な専門知識・能力を習得し、福祉の人間学について探求心と論理的、かつ科学的な思考力を身に付けることができる。
科目概要	乳幼児の発達や子育てをめぐる今日の問題や課題についてそれぞれが情報収集・文献調査を行い、それをもとに意見交換や考察を行い、子どもの健全な育ち・より幸福なこども時代を送るための環境作りや支援、保育（家庭保育）の方法について検討する。
到達目標	1. 子どもを取り巻く現状と課題を理解する。 2. 様々な文献・論文を講読し、分析・考察する力を養う。 3. 子ども・家庭福祉に関する自らの研究課題を明らかにし、研究の方向性を定める。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：研究の方法—種類 第3回：研究の方法—分析 第4回：研究テーマの選択と進め方・概要 第5回：研究テーマの方向性・研究計画 第6回：文献購読① 履修生の関心領域・内容 第7回：文献購読①の内容についての討議 第8回：文献購読② 履修生の研究したい内容 第9回：文献購読②の内容について討議 第10回：文献購読③ 履修生の研究したい内容に向けての方法論に関して 第11回：文献購読③の内容についての討議 第12回：文献購読④ 研究テーマに関連しての内容 第13回：文献購読④の内容についての討議 第14回：文献購読からのまとめ 第15回：文献購読のまとめと発表

学修方法	講義、文献購読、討議、発表の組み合わせで行います。				
評価方法	個々の授業・討議への参加 80%、発表 20%				
課題に対するフィードバック	提出された課題に対してコメントを記載または口頭でフィードバックを行います。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んで置いてください。 不明な専門用語を事前に調べておいてください。各学修の目安は 40 分				
オフィスアワー	初回にお知らせします。				

科目名	子ども家庭福祉特論Ⅰ
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	2単位数（30時間数） 選択 春semester
科目の位置付	（2）最新の高度な専門知識、能力を習得し、関連諸科学における主要な理論、研究方法に関する理解を深め、子ども家庭福祉学の諸課題の解決について、基礎的研究能力を習得することが出来る。
科目概要	本科目では、子ども家庭福祉において課題となっているトピックスを取り上げ、課題が生じた背景、課題解決に向けた取り組みをソーシャルワークの視点から考察する。 受講生の関心テーマを考慮し、講義で使用する文献、講義の進め方は受講者と相談の上決定する。
到達目標	1. 子どもと家族が直面する困難、課題が生じる背景を理解できる。 2. 多面的・多角的に子どもと家族、子どもと家族を取り巻く環境を理解できる。 3. 子ども家族福祉分野においてソーシャルワーカーに求められる役割・機能を理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：子どもの権利を考える①（子どもの権利の歴史的変遷） 第3回：子どもの権利を考える②（児童の権利に関する条約） 第4回：子どもの権利を考える③（ヤングケアラー） 第5回：子どもの権利を考える④（子どもの意見表明権の保障） 第6回：子どもへの虐待①（子ども虐待の現状） 第7回：子どもへの虐待②（死亡事例検証） 第8回：子どもへの虐待③（高年齢児への虐待） 第9回：子どもへの虐待④（支援者・専門職の質の向上） 第10回：子どもの貧困①（子どもの貧困の現状） 第11回：子どもの貧困②（ひとり親家庭の貧困） 第12回：子どもの貧困③（若者の貧困） 第13回：子どもの貧困④（貧困防止に効果的な制度・サービス・実践方法） 第14回：まとめ① 第15回：まとめ② 受講生の状況により講義内容は柔軟に変更する。

学修方法	発表と討議で進める。 PC を持参すること。				
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	発表・討議においてフィードバックを行う。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：指定された文献を読み、要約を作成し、疑問点・議論したい内容をまとめる。 事後学修：講義の論点をまとめ、参考文献等を読み、理解を深める。				
オフィスアワー	日時については、初回授業で連絡します。 担当教員の研究室は2号館 2708 研究室です。				

科目名	子ども家庭福祉特論Ⅱ
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	本科目では、子ども家庭福祉特論Ⅰとともに「子ども虐待」をテーマとして学ぶ。 特に、子ども家庭福祉特論Ⅱでは、子ども虐待が及ぼす子どもへの影響、被虐待児への支援、対応における関係機関との連携、子ども虐待への予防について広い視野から学ぶ。
到達目標	1. 子ども虐待が及ぼす子どもへの影響について臨床心理・保健・医療・脳科学等の広い領域から理解する。 2. 被虐待児への治療とケアについて学ぶ。 3. 子ども虐待への予防の視点を学び、関係機関との連携と制度に基づいた仕組みを考える。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1-2回：子ども虐待が及ぼす子どもへの影響 第3-4回：被虐待児への治療とケア（社会的養育） 第5-6回：被虐待児への治療とケア（心理面接） 第7-8回：被虐待児への治療とケア（トラウマケア） 第9-10回：虐待する親への予防的支援（子育て支援） 第11-12回：虐待する親への予防的支援（グループケア・当事者参加） 第13-14回：子ども虐待の予防のための地域連携と仕組みづくり 第15回：まとめ

学修方法	発表と討論で進める。				
評価方法	レポート 60%、授業中の発表・討議・演習への参加 40%で評価する。				
課題に対するフィードバック	発表、討論におけるフィードバックを行う。 また、課題提出後には、面談を設けてフィードバックを行う。				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：指定図書・論文を熟読し、疑問点等を考える。 事後学習：発表担当者はレジュメにまとめ、参考文献等を読む。授業での討議等をまとめる。				
オフィスアワー	社会福祉学研究科、2号館 6 F2610 研究室。時間については初回授業時に提示する。				

科目名	子ども家庭福祉特論Ⅱ
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋セメスター
科目の位置付	社会福祉分野における高度な専門知識・能力を習得し、福祉の人間学について探求心と論理的、かつ科学的な思考力を身に付けることができる。
科目概要	乳幼児の発達や子育てをめぐる今日の問題や課題についてそれぞれがフィールド調査を行い、それをもとに意見交換や考察を行う。それによって子どもの健全な育ち・より幸福なこども時代を送るための環境作りや支援、保育（家庭保育）の方法を見出すことを目的とする。
到達目標	1. 子どもを取り巻く現状と課題から自分の研究テーマを見出す。 2. 子ども・家庭福祉に関する自らの研究課題を明らかにし、研究の方向性を定める。 3. フィールドスタディを計画し・実行した結果を分析・考察する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：各自の研究テーマについての発表① 第2回： 各自の発表に対する討議 第3回：発表・討議からのまとめ 第4回：各自の研究テーマについての発表② 第5回：発表に対する討議 第6回：発表・討議からのまとめ 第7回：フィールドスタディ（視察調査）に向けた準備—調査目的 第8回：フィールドスタディに向けた 第9回：フィールドスタディの実際 準備—方法の検討 第10回：フィールドスタディの実際2回目 第11回：フィールドスタディの実際3回目 第12回：フィールドスタディの実際4回目 第13回：報告書の作成 第14回：報告書からのプレゼンテーション 第15回： まとめ

学修方法	講義、討議、学外調査、発表（プレゼンテーション）の組み合わせで行います。				
評価方法	個々の授業・討議への参加 40%、プレゼンテーション（調査レポート・発表） 60%				
課題に対するフィードバック	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んで置くこと 不明な専門用語を事前に調べておくこと				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んでおいてください。 不明な専門用語を事前に調べておいてください。 学修の目安は 40 分。				
オフィス アワー	初回にお知らせいたします。				

科目名	子ども家庭福祉特論Ⅱ
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	2単位数（30時間数） 選択 秋semester
科目の位置付	（2）最新の高度な専門知識、能力を習得し、関連諸科学における主要な理論、研究方法に関する理解を深め、子ども家庭福祉学の諸課題の解決について、基礎的研究能力を習得することが出来る。
科目概要	本科目では、子ども家庭福祉特論Ⅰ同様、子ども家庭福祉分野の課題を通して、子ども家庭福祉におけるソーシャルワークについて理解を深める。特に、「地域で子どもと家族を支える」ことに着目し、障がい者支援、公的な経済支援、教育・医療・司法等他分野との横断的な支援について、社会的養護・外国にルーツを持つ子どもと家族への支援から学びを深める。 受講生の関心テーマを考慮し、講義で使用する文献、講義の進め方は受講者と相談の上決定する。
到達目標	1. 多面的・多角的に子どもと家族、子どもと家族を取り巻く環境を理解できる。 2. 他分野との横断的な支援に向けて、子ども家庭福祉分野のソーシャルワーカーに求められる役割・機能を理解できる。 3. 子ども家庭福祉における地域支援・地域実践について理解できる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2回：子ども家庭福祉における地域包括的支援を巡る現状① 第3回：子ども家庭福祉における地域包括的支援を巡る現状② 第4回：社会的養護①（社会的養護の現状） 第5回：社会的養護②（施設養護） 第6回：社会的養護③（在宅養護） 第7回：社会的養護④（社会的養護と障がい児支援） 第8回：社会的養護⑤（保護者・家族支援） 第9回：外国にルーツを持つ子どもと家族への支援①（現状と課題） 第10回：外国にルーツを持つ子どもと家族への支援②（就学前の子ども） 第11回：外国にルーツを持つ子どもと家族への支援③（就学後の子ども） 第12回：外国にルーツを持つ子どもと家族への支援④（障がい児支援） 第13回：外国にルーツを持つ子どもと家族への支援⑤（保護者・家族支援） 第14回：地域における支援の実例（先駆的な実践事例） 第15回：まとめ 受講生の状況により講義内容は柔軟に変更する。

学修方法	発表と討議で進める。 PC を持参すること。				
評価方法	レポート 50%、討議への参加 50%によって評価する。				
課題に対するフィードバック	発表・討議においてフィードバックを行う。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：文献を読み、要約を作成し、疑問点・議論したい内容をまとめる。 事後学修：講義の論点をまとめ、参考文献等を読み、理解を深める。				
オフィスアワー	日時については、初回授業で連絡します。 担当教員の研究室は2号館 2708 研究室です。				

科目名	子ども家庭福祉特論演習
科目責任者	藤田 美枝子
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	3. 自らの研究分野以外の幅広い領域を俯瞰的に把握し、専門応用力を駆使して、生活問題を切り拓く、新たな知を創ることができる。
科目概要	本演習では、博士論文作成に向け、院生とのディスカッションを中心に行う。特に、論文のテーマに関する主要概念や研究枠組みの検討を行い、研究方法の独自性や先見性を問いながら進める。具体的には、文献や先行研究を調べてまとめ、発表と討議を行い、これらを通して知識を深めていく
到達目標	1. 先行研究や文献を検索し、講読し概要をまとめる。 2. 研究目的と方法を明確にして、研究計画書を作成する。 3. データの収集や分析について理解し、考察を発表する。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 授業日程等については、受講者と相談しながら調整する。 1. オリエンテーション 2. 先行研究や文献の調査・講読・概要のまとめ 3. 研究計画書の作成 4. データ収集のための様々な方法 5. データの分析と結果・考察のまとめ方

学修方法	発表と討議で進める。				
評価方法	発表レポート 60%、授業中の発表・討議・演習への参加 40%で評価する。				
課題に対するフィードバック	発表、討議におけるフィードバックを行う。 また、課題提出後には、面談を設けてフィードバックを行う。				
指定図書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	授業内で適宜資料を提示する				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：指定図書・論文を熟読し、疑問点等を考える。 事後学習：発表担当者はレジュメにまとめ、参考文献等を読む。授業での討議等をまとめる。				
オフィスアワー	社会福祉学研究科、2号館 6 F2610 研究室。時間については初回授業時に提示する。				

科目名	子ども家庭福祉特論演習
科目責任者	太田 雅子
単位数他	2単位（30時間） 選択 秋セメスター
科目の位置付	自立した研究者として、独創的な研究テーマを設定し、その仮説を構築し、研究計画を立案することができる。
科目概要	研究テーマを決め、関連する文献を検索し、文献レビューを行い、ノートを作る。 研究目的・方法を明確にして研究計画を作成する。
到達目標	文献レビューを確実に行うことができる。 研究計画書を作成することができる。 データの収集・分析について理解を深めることができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 授業日程については、受講者と相談・調整を行う。 オリエンテーション 文献調査・講読とレビューについて 研究計画書（プロポーザル）の作成について データ収集のための様々な方法 分析・考察の進め方

学修方法	講義、討議、発表・報告、計画書作成等の組み合わせで行います。				
評価方法	文献レビュー 50% 研究計画 50%				
課題に対するフィードバック	文献レビューや研究計画報告・発表に関して、その都度、フィードバックをします。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	授業内に提示する文献を調べる、または配布の文献を読んでおいてください。 不明な専門用語を事前に調べておいてください。学修の目安は 40 分				
オフィス アワー	初回にお知らせいたします。				

科目名	子ども家庭福祉特論演習
科目責任者	泉谷 朋子
単位数他	2単位数 (30 時間) 選択 秋semester
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、社会福祉学・子ども家庭福祉学の先行研究をレビューし、研究計画を立案できる。 (5) 研究計画に基づき、データ収集を行い、分析・考察し、結果を論文にまとめ、発表することが出来る。
科目概要	本演習では、受講者が関心を持つテーマ等から研究課題を精査し、先行研究レビューを行い、その成果を発表する。討議により受講者の研究課題の理解を深め、論文作成に向け、研究目的、研究の枠組み、研究方法、データ収集及び分析手法、論文作成に必要な概念について吟味する。
到達目標	1. 先行研究や文献を読み、自身の関心、研究課題を明確にできる。 2. 自身の関心、研究課題を論証するため、適切な研究方法、データ収集、分析方法を精査できる。 3. 研究課題について理解を深め、研究成果を報告・発表することができる。
授業計画	<授業内容・テーマ等> 第1回：オリエンテーション 第2～6回：先行研究レビュー 第7～8回：研究課題の明確化、仮説の設定 第9～11回：研究課題に即した研究方法、データ収集・分析方法の検討 第12～13回：研究を遂行するための課題の検討 第14回：成果報告 第15回：まとめ

学修方法	発表・討議で進める。 PC を持参すること。				
評価方法	発表・討議への参加状況 50%、レポート 50%				
課題に対するフィードバック	発表・討議においてフィードバックを行う。				
指定図書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書					
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学習：レジュメを作成し、成果を発表できるよう準備する。 事後学修：講義を受け、改善すべき点に取り組み、理解を深める。				
オフィスアワー	日時については、初回授業で連絡します。 担当教員の研究室は 2 号館 2708 研究室です。				

科目名	社会福祉学特別研究
科目責任者	川向 雅弘
単位数他	8 単位（120 時間） 通年
科目の位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。
科目概要	修士論文を作成するために必要な社会福祉学の領域の最新の学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、修士論文を完成させる。研究指導は、研究指導教員を中心に、社会福祉学分野の複数教員が協力しながら行う。
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第3者評価を得て、資料収集を行う 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる
授業計画	1 年次春semester : <授業内容・テーマ等>社会福祉原論特論、ソーシャルワーク論、社会福祉政策論、社会福祉実践研究などで学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。 <評価方法>討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%） 1 年次秋semester : <授業内容・テーマ等>春semesterの学習を踏まえて研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲し、研究科委員会の承認を受ける。 <評価方法>発表態度（30%）発表内容及び研究計画書の完成度（70%） 2 年次春semester : <授業内容・テーマ等>研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を開始、データ収集、分析を行う。 <評価方法>研究計画の倫理的配慮の精度（40%）データ収集の適切性（30%）、データ分析の論理性・技法の適切性（30%） 2 年次秋semester : <授業内容・テーマ等>指導を受けながら、データの分析を行い、論文を執筆し、完成させる。 <評価方法>論文の完成度(70%) 第3者の評価による修正の適切性(30%)

学修方法	ディスカッション、発表、個別指導、講義				
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。				
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談等によってフィードバックを行う				
指定図書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
参考書	なし				
書籍名	著者	発売元出版社	価格	ISBN	媒体種別／備考
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示した該当箇所を学修する。(40 分) 事後学修：授業内容について振り返り整理しておく。(60 分)				
オフィスアワー	初回授業時に提示				